令和７年度第９回南相馬市小高区地域協議会　会議録

１　日　時：令和８年２月１８日（水）

午後１時３０分～午後４時１０分

２　場　所：小高生涯学習センター

多目的室

【出席委員　１１名】

会　長	阿部　貞康	委　員	山本　麻子
副会長	志賀　由紀夫	委　員	末　芳治
委　員	末永　義人	委　員	飯塚　宏
委　員	小林　友子	委　員	杉　重典
委　員	半谷　善弘	委　員	半谷　恵美子
委　員	菅原　紀子		

【欠席委員　３名】

委　員	本田　博信	委　員	熊田　めぐみ
委　員	西山　喜代子		

●南相馬市職員

小高区役所長	佐藤　克巳
小高区市民総合サービス課長	渡辺　和宣
小高区地域振興課長	高野　真至
おだかぐらし担当課長	志賀　弘達
小高区地域振興課長補佐兼庶務担当係長	渡邉　幸以
小高区地域振興課振興担当係長	五十嵐　竜也
小高区地域振興課主事	酒井　亮輔
小高区地域振興課主査（書記）	木幡　祐一朗
生活環境課長	矢吹　喜彦
生活環境課ごみ減量推進係長	岡崎　智洋
鹿島区地域振興課鹿島活性化担当係長	田中　俊行
鹿島区地域振興課副主査	藤田　はるひ

１.開　会

○事務局（高野次長）

只今より令和７年度第９回小高区地域協議会を開会いたします。本日の会議の成立要件につきまして、事務局より報告を申し上げます。

本日の欠席委員は、本田博信委員、西山喜代子委員、熊田めぐみ委員です。地域協議会１４名中、１１名の出席ということで、過半数を超えており、協議書１０（２）により、本日の会議は成立しております。初めに、阿部会長からご挨拶をお願いいたします。

２．会長あいさつ

小高区地域協議会　阿部会長よりあいさつ

３.議　事

○事務局（高野次長）

議事の進行については、地域自治区の設置等に関する協議書の規定によりまして、会長が会議の議長となります。

それでは阿部会長、議事の進行をお願いいたします。

(1) 会議録署名人の指名

○阿部会長

それでは議事を進めさせていただきます。まず、会議録署名人の選任についてですが、会議録署名人については、議長選任でよろしいでしょうか。

（異議なしの声）

それでは、今回の会議録署名人は、小林　友子委員、半谷　善弘委員の２名にお願いします。よろしくお願いいたします。

(2) 報告事項

報告事項①『南相馬市一般廃棄物処理計画（素案）に係るパブリックコメント手続きの実施について』

〇阿部会長

それでは、（２）報告事項に移ります。

報告事項①『南相馬市一般廃棄物処理計画（素案）に係るパブリックコメント手続きの実施について』を議題といたします。

それでは、担当課より説明をお願いします。

生活環境課　資料１により説明

〇阿部会長

ただいま担当課から説明がありました内容について、皆様からご質問があればお願いします。

〇末委員

原町区にある施設が令和１６年度で使えなくなると資料には書いてありますが用地等の問題もあって建て替えをする際に、新しい場所の選定はされているのでしょうか。

〇生活環境課長

クリーンセンターにつきましては、施設自体は築３０数年経ってる古い施設なので、修繕をかければかけるほど費用がかさみます。修繕費がかかれば、皆様からいただいてる税金がかかってしまうという状況もあります。延命化を図ることも可能なんですが、最終処分場が残り１０年というところで建て替え等含め最終処分場の建設が必要ということで基本構想を練りました。今現在設備の規模や建て替えの場所は選定中なんですが、市としてはある程度方向性が見えた段階で市民の皆様に対して説明会等を開催し進めてい

くことを検討しております。

○末委員

３年前に地震の影響で使用できなくなり、生ごみがいっぱいたまって市民に不便がかかった事例がありました。使用期限がわかった上で今後老朽化した施設が、実際に令和１６年まで維持できるのか非常に危惧されます。

○生活環境課長

ご意見ありがとうございます。そうですね。今回の東日本大震災では施設は大丈夫でした。施設としては適宜修繕等しながら対応しておりますので、問題ないと認識しております。今回の計画もそうですが、市民の方にいかにごみの出し方のルールを守っていただけるかと思っております。実際今もプラスチックごみの容器の中に包丁やハサミが入っている、燃えるごみの中に乾電池が混入されてたり等分別をしないでごみを出す方がいます。ルールを守らない人がいることで、結果火災等が発生する恐れがあります。今末委員がおっしゃったように施設を止めざるを得ないというか、修繕が必要になってしまうということがありますので、基本的には整備点検しながら修繕対応で延命していきますが、やはり市民の方々1 人 1 人意識を持っていただかないと今言ったように施設の修繕が必要になり、時間がかかれば市民の皆さんにも迷惑をかけてしまうことになります。その場合は近隣の自治体に協力をいただきながら、ごみ処理の方を進めていくような予定で考えておりますが、やはり市民１人１人の意識を高めていくか、市でもチラシを作製し周知はしていますが、今現在でも先程のように全然分別されてない現状もございますので、引き続きごみの減量化とルールの厳守を含めて周知徹底していく必要があると感じております。市民のプロ意識の方をどのように高めていくかが一つの課題かというふうに考えております。

○阿部会長

その他ございますか。

○半谷善弘委員

私も行政区長でありますが、集落のごみの集積場で、今結構困っているのが樹木の剪定のごみです。一軒で十何袋出てくるような状況です。昔ですと

樹木の剪定ごみは、大体畑とか田んぼで燃やして焼却してそのままにしてたというのが現状ですが、今はできなくなりました。そこで先ほど堆肥センターの話があったわけですが、そういった堆肥に還元できれば一番いいと思うのですが、堆肥センターの構想進捗状況は、どういった状況なのでしょうか。

○生活環境課ごみ減量推進係長

堆肥センターに関しましては、今の段階では具体的にどういう施設を作るかまでは決まっておりません。民間の団体から堆肥の活用についてモデル事業的にやってみたいというご相談もあります。それと他の企業から草等を集めて、それを処理する施設を考えたいというお話ももらってます。先程申し上げた施設が４つありましたけども、この４つの施設を市だけで維持していくことは、お金がものすごくかかりますので、民間の力も活用することも含めて検討していきたいと思います。

○生活環境課長

半谷委員がおっしゃった通り、震災前は焼却していたケースが多くて震災以降ですね、放射線の関係もあり、野焼きはやめてくださいという形になっておりました。年間通して今後の重点施策の中にもありましたとおり、草木が増える時期は決まっていたように感じてましたが、私が見ている中だと年間通してクリーンセンターに運ばれてるケースが多いです。クリーンセンターでも、なぜこんなに増えているか等の分析は中々できてないんですが、その中で先程の話に関連しますが、それを燃やすことによって灰が出て最終処分場の行き場がなくなってしまうこともありますので、それらをいかに堆肥センターという形で、市としてはそれを民間施設で協力できないか等も念頭に置きながらごみの減量化や最終処分場の延命も含め、適宜対応しながら考えていきたいと思っています。

○阿部会長

その他ございますか。

○志賀副会長

樹木の剪定については、ホームセンター辺りで樹木や牛糞入りの肥料とし

て販売して多様化を図ってもらえればと思います。これらをバイオマス関連として活用し、新庁舎にバイオマスの再エネに組み込んでもらえればいいかと思いました。資源ごみ関係についてネットで調べたんですが、今は５Ｒが主流のようですが中身を見ると、３Ｒ、リデュースとリユースとリサイクル、プラス二つでリフューズ、不用品を受け取らない、リペア、物を長く使うとのことです。この文章の中にある３Ｒも５Ｒも読んでみて同じかと思ってみてみましたが、市民によりわかりやすく周知をするならば、他市町村の事例も参考にしてほしい。一番わかりやすかったのは、漫画と１行の言葉で全てを表してある物でした。長文よりも市民が一目見てわかりやすい方が周知しやすいのかと思います。その文章ですが、「今後ごみの削減をするんであれば、まず海より始めよ」でした。事業者に問いかける前に、まずは自分から行動してみてはいかがかなと思います。

せっかく資料を作成してもらって申し訳ないのですが、文章が長いです。市の概況等も内容にありますが、それはわかっている話なので、資料として載せる必要はないと思います。今仕事するには人間、ＡＩ、ロボット、この三本柱だと言われています。文章の作成にも、ＡＩに必要な項目を入れると文章を作成してくれるので、そのように人的な能力も少なくて済むなか、ごみも減らしていく方向性で始めてみようと提案してみました。今までの話は意見となります。

質問事項として、ごみ処理の有料化なんですけども検討しますといってますが、どんな手を使って有料化を進めていくのでしょうか。有料化といっても色々とやり方はあると思いますが、どのような形で進めていくのかを質問としてあげたいと思います。

〇生活環境課長

ご意見等を頂戴した３Ｒ５Ｒの件についてはご意見いただいた中で改めて、また最終的な計画策定につきましてはご意見頂戴した中で、精査を重ねながらどのような表記がいいのか検討させていただきたいと思います。またペーパーレスについては、市としても基本的に庁内の会議等はペーパーレスでやってますので、今後地域協議会につきましても、地域振興課等で、タブレット配布等含めて、検討いただければと思っております。ごみ袋の有料化ですが今現在市の指定袋の方購入して頂いてますが、一巻１０枚で２５０円辺りです。その中にごみ処理に係る経費、や修繕費にあてております。自治

体の中には一番高い所で一巻１０枚１０００円の所もあります。そのように費用の負担をして頂いて、ごみ処理の費用に充てていく実態があります。市としても今後どのような方向性でいくのか、先ほど言ったように、ごみの減量化に繋がらなかったら有料化を検討、それと市民の意識を変えていくことや、あとは施設の修繕等々について検討していく必要があると考えております。実際のところ他県の自治体とかも検討委員会や専門家のご意見を聞いていて、ごみの処分を無料で行っていて、市民の方から負担していない自治体は少ないとご意見もいただいております。視点の一つとして市民の意識改革も今回の計画に含まれており、ごみ処理の有料化によりごみの減量に繋がるという状況もございます。一方で市民の方がごみを捨てるのにもお金かかるならば、ごみ袋を大切に使おう、リサイクルできるものは長く使おうという意識をもってもらえたらと思います。他の自治体の状況もありますので、どういう形で有料化を検討するかは状況を見ながら、精査していきたいと考えております。副会長からご指摘ありましたとおりごみの減量化の件なんですが、市民の皆さんが出されるごみは生ごみがメインで、４４％と組織分析調査で占めております。実際ごみを出す際に、水を切って出してもらえるだけで何分の１になったりする状況でございます。そういう細かなところはごみを出す市民のルールというより意識を持っていただくことで全然変わってくるかなと思っております。副会長のいうように生ごみの処理機を購入した際の助成等や、生ごみを活用して、電気等に変換できないか等、新しい施設ではそういう視点でも物事を考えていきたいと思っているところでございます。

○志賀副会長

一般ごみではないし担当部署も違うからだけど法律上、一般ごみは自治体で対応となっているかと思いますが、例えば今後間違いなく発生する太陽光パネルの処理とか蛍光灯もＬＥＤに切り替わることから、販売中止になります。そちらもリサイクルが必要になってくると思いますが、これは一般ごみとは違うので返答出来かねない部分あるかと思います。市としての考えはあるんでしょうか。

○生活環境課長

蛍光灯やＬＥＤは、今現在クリーンセンターで一時お預かりして、それを

違う業者に受け渡しているという状況になっております。今後こういう蛍光灯や処分場の設備等の整備も出てくると思いますので、どういうふうに処分していくか、リサイクルできる物かそうでないか、そういったことも含め考えて行きたいと思っています。太陽光については副会長のおっしゃるとおり、市としてもここ何年か先のところで太陽光パネルの耐用年数や寿命もありますので、その時期が来たら民間事業者の方々とも意見を交え今後のどのように作業していくかを検討していきます。例えばガラスや何か特殊なものを３、４種類に分別して、それを別の業者さんに渡してお金として有料化になる部分やリサイクルできる部分もありますので、そういった受け渡し先も、今後業者と考えていくようなお話を伺っておりましたので、市の方も情報収集を継続していきたいと思っております。

○小林委員

原町区の復興住宅の中にバイオマスの施設がありますよね。あの施設は今後どのように動かしていくのでしょうか。最初の計画だとそこに温浴施設を作って利用してもらうと聞いていました。今日のお話で材木等の剪定の処理に困っているんであれば、それを利用できたらいいのではと思いました。

○生活環境課長

原町にある施設ですが担当課が違うものですから、今後の見通しについては小林委員からもあったとおり、その草木の再利用部分で何か活用できればごみの減量に繋がるというご意見をいただきましたので担当課の者と連携しながら考えていきたいと思います。チップにつきましては、おそらく市外の方から仕入れていたと記憶してるんですけども、そういう部分で余計な費用をかけるのであれば、市民が出したごみをチップにし、それを粉砕するのにお金はかかりますが、そういった活用方法も含め、担当課の者と情報共有しながら連携したいと考えております。温浴施設に関する部分については担当課ではないため、回答はできかねる状況です。

○小林委員

せっかくなら剪定して出た草木を活用して、例えば暖房代わりに使った方がいいかと思いました。一意見として申し上げます。

○生活環境課長

チップを燃やした燃料で施設内の暖房として使っているという話は聞いたことはありますが、市としては先程小林委員からご意見があったように、ごみの減量化や施設の運営化を進めていけるように、その両面の検討をしていきたいと思います。ご意見ありがとうございます。

○飯塚委員

志賀副会長同様、私も内容が硬いと思いました。本当に市民の意識を高めていくのなら、子どもやその保護者、高齢者の方達にも広まるようにした方がいいのと思います。そういう意味では、ポイント制を導入してみるのも有りかと思います。南相馬市のキャラクターの、「のまたん」を使ってみるのもいいかと思います。あともう一つ、二宮尊徳の報徳仕法が入っていないように思います。ごみ袋の所でもありましたが、番号をいれる形はいかがでしょうか。大体ごみ袋の中に包丁入れて出すなんて危ないことです。それ自体安心安全のまちづくりに関わってきます。ごみの削減なら例えば袋に「のまたん」が書かれている、袋に積小為大等書いてあれば、ごみの削減にも一役買ってくれるかと思います。南相馬市は報徳仕法の町です、アイディアとかこれば面白いかなと思ったら是非やってみてはどうかと思いました。

○生活環境課長

基本計画ですが、少しでも見やすくというのは再度ご意見いただいたので精査していきたいと思っています。先ほどお話ありましたごみの番号の件ですが、皆さんに番号を各世帯にということで記載させていただいた点も、以前区長会でお話した中で、個人情報の関係があって個人が特定されてしまうというところで、行政区によっては、ごみの番号を書かなくても全部把握できる区長さんもいれば、必ず書いてくれという区長さんもいらっしゃいます。ごみのルールを守っていただきたいということで、市として指定袋をお願いしておりますが、守らない方が多いという声がここ最近多い状況で、指定袋以外で出しても回収されてる、指定袋を買って出している皆さんもそれを見てるんじゃないかと、その辺が全然納得いきませんというご意見がありました。今後区長会が４月にありますので、説明をしながら進めていきたいと思うんですが、今後はルールを守らない、指定のごみ袋に入れて出さないものについては回収しない方向で市としては進めていく方針で考えております。我々所管としては意識づけそのルールを守られないごみを回収すること

によって、その出された方が指定袋でなくても結果として回収してるっていう考えが悪循環に繋がると考えこともあるので、今後はごみの出し方に対しての意識、細かい分別も含めてルールの徹底しながら、市民の意識を変えていきたいというふうに思っております。

子どもたちに対してですが、生活環境課で出前講座を開催しておりますが、子どもたちが学び、帰って保護者の方にごみの分別について学んだよっていう姿勢が素直で可愛らしいなと感じました。あと市としては子どもが興味をもって参加しやすいように、カードゲームで学ぶということを今年度取り組んでおり、出前講座で学校に行った際、ごみのリサイクルやごみの出し方等含めて将来的には少しでも子どもの教育や意識付けに今後も力をいれていきたいと考えております。ご意見ありました部分につきましては、計画や事業の展開状況をみて、今後は検証しながら進めていきたいというふうに思っております。ご意見ありがとうございます。

○半谷恵美子委員

ちょうど数日前にテレビでリチウムイオン電池の発火が原因で施設が火事になって、何ヶ月も施設が使えないというニュースを聞いて、結構一人一人の意識は大事だなと思った矢先でのタイミングだったので、今回のこともタイムリーな話だと思い聞いていました。仕組みを作っていただくのが本当に大事だと思っていますが、長い目で見ると一番大事なのは、一人一人の市民の心がけをどうやって変えていくかだと思っていて、飯塚先生がおっしゃったように、目に見えて分かるメリットがないと面倒くさいと感じてしまうように、楽しく分別できる取り組みを市の方としてもフォローをしていただけると思います。

それと仕事の担当者というより、一市民としてごみを減らす工夫って何か意識されてることがあったらお聞かせいただければと思います。意外と思われるかもしれませんが、自分の実体験を伝えるのって結構大事だし、説得力があると思います。こんな工夫して良かった、ここは改善したほうがいい等、仕事以外で何か心掛けてることがあったら聞かせて頂けたらと思います。

○生活環境課長

リチウムイオンは今色々な自治体で火災の原因になっております。今年の

４月からリチウムイオン電池の回収を、市役所と区役所とクリーンセンターでできるように、準備を進めているところです。先ほどお話あったとおり、他の自治体でもリチウムイオン電池の取り扱いの件でお話を伺ったところ、火災が発生して施設の利用ができなくなったという話をお聞きしました。市民の意識、ごみの分別の意識、周知方法を含めて考えていきたいと思います。

半谷委員からお話があったとおり、私個人的にやってるのはやっぱり生ごみの水切りです。また、出前講座に行ったときに、雑紙の仕分けを知らなかったという声が多い状況でした。それを行うことによってごみの減量や、資源化にも繋がるところがあります。私以外の職員も自分の経験も生かしながら、どういうふうに取り組んでるかこうすればもっといいよというのは紙面だけでは伝わらないので、話をすることで伝えることは大きいと思っておりますので、そういう仕組みを考えていきたいと思っております。

一昨年あたりにワンペーパーのチラシでごみの減量をテーマに漫画のような形で作成したところ、すごく見やすくて面白い、目に留まるというご意見を市民の方から生活環境課にいただきました。市民の目に留まり、なおかつ興味を持ってもらうという視点が大事だと思いました。今ほどご意見あった部分も含めて、自分の経験も生かしながら、周知していきたいと考えております。

○阿部会長

１つだけよろしいでしょうか、目標数値があまりにも低すぎないですか。１０年計画の中で、全体最初の５年間は何もしないで後半の５年間でやっていくのですよね。システムの構築にしても、もっと早くできないのでしょうか。

○生活環境課長

通常の重点政策をやっていけば１人１日あたりごみ排出量１０年後９００ｇという数字にはなります。今現在南相馬１０７０ｇのごみの量、数値的にまだ未確定なんですが近隣の自治体だともう既に達成できてるという状況のところもあり、目標値の見直しをかけたところです。検討委員会の中でも簡単に達成できる目標数値ではどうかとはご意見いただき、今回の目標について改めて市民の意識の持ち方を確認しつつ７４８ｇという数字にさせていた

だきました。これがなかなか被災地域の難しい部分もありつつ、１０年間で全国平均的な数字まで上げたいという思いを込めた数値目標となっております。紙オムツや生ごみ等の処分をどうするかの部分で、市の施設だけでは対応が難しいので新たな施設を作ってとなると、費用面で考えると難しい部分もあります。リサイクルを行っている民間業者もございますので、随時意見交換しながら、５年先ではなく、早めに取りかかり今後のごみの減量化に向けて対応していきたいと考えております。

〇阿部会長

福島民報の新聞記事に載ったものですが、株式会社クボタとの実証試験とあります。４月からモデル地区を決めて行う予定のようですが、どう進めていくのですか。

〇生活環境課長

株式会社クボタの実証実験が始まるのは秋頃の予定になります。これから世帯数を調整してまいりますが、今回の実証に当たりましては先ほどの生ごみ対策ということで、他自治体では集積所に大きいプラスチックの入れ物を置いて各世帯からでる生ごみを入れてもらって回収しリサイクルしているところもあります。今回の実証については色付きのごみ袋に生ごみと通常のごみを一緒に入れてもらい、そこから機械で判別して生ごみだけを抽出してリサイクルできないかと思っております。それをうまく活用できれば、今後の新たな施設でも採用できる部分もあると思いますので、株式会社クボタから提案があり今回実証に繋げたという状況になっております。

〇阿部会長

ありがとうございます。その他、ありますでしょうか。ないようですので、この報告についてはこれで終了といたします。

報告事項②『鹿島駅駅舎利活用施設整備計画（素案）についてパブリックコメント手続きを実施する件について』

○阿部会長

それでは報告事項②『鹿島駅駅舎利活用施設整備計画（素案）についてパブリックコメント手続きを実施する件について』を議題といたします。

それでは、担当課よりご説明をお願いします。

鹿島区地域振興課　資料２により説明

○阿部会長

ただいま担当課から説明がありました内容について、皆様からご質問があればお願いします。

○小林委員

この件に関して聞きたいこととお伝えしたいことがあります。鹿島駅駅舎は公費改修の工事と維持費の工事なのでしょうか。それと小高駅駅舎は無人駅になったときに、小高は公費ではなく自己資金での運営をしております。だからといって鹿島駅舎がこうなることについて別に不満はありません。小高駅舎に足りないのは券売機とエレベーターの設置と思いますので、私はそれを希望しております。なぜかというと、私自身近い将来免許の返納があること、それと遠出の時は電車を利用します。配偶者が亡くなってから電車を利用する機会が増えたこともありますが、荷物をかかえての階段の上り下りはすごく大変なことだと実感しております。あともう一つ、我が家は旅館業を営んでおります。海外からの利用者もいらして、その方々も大きなトランクを持ってこられます。大きな荷物をもって階段の昇り降りの大変さは分かります。それらのことも踏まえて是非駅舎の改修をする際には小高駅舎の方も検討していただけたらと思いました。この資料を見ていたら全部公費なのですよね。それなら小高駅も一緒に対応出来れば、住み良いまちづくりの一環になるのかと思います。

○小高区役所長

要望の部分については、何度も要望が出ていますので市全体として、JR の

方への要望活動は引き続き実施しているという状況でございます。

○鹿島区地域振興課鹿島活性化担当係長

公費で改修するのかという部分については、その通りでございます。国の補助金である第二世代交付金を活用し、補助率２分の１を検討しております。補足ですが、なぜ鹿島駅舎がこういう状況になっているかというのは、ＪＲの建て替え計画が示されたというタイミングが一つのきっかけと考えております。市としても鹿島区民の声を受け止めて、駅舎の保存活用した改修について市が主体的に行うことについてＪＲと協議し、それならば譲渡しますよという流れになっております。現時点では協定はまだ結んでおりません。

○小林委員

ＪＲが改修工事の費用を出してくれるのですか。

○鹿島区地域振興課鹿島活性化担当係長

改修工事については市が費用を負担します。鹿島駅舎の中にSuicaの改札機はありますが、券売機等はありません。

○小林委員

小高区もありませんよね。別に鹿島区だけを攻めている訳ではなくて、小高区も鹿島区も同じレベルにしてほしいというのが、小高区の希望なんです。それがないからずっと帰ってきた人たちの不満が積もってるわけです。ぜひとも市長に訴えて欲しい、ここに帰ってきて住んでる人たちが思ってることをもっと意見を取り込んでほしいです。

○阿部会長

財源の残り２分の１は鹿島区に割り当てされた一般財源ですか。

○鹿島区地域振興課鹿島活性化担当係長

はい、そのとおりでございます。それと先ほど途中になった話でありますが、Suica改札機が駅舎の中にあるのですが、その移転費用は当然ＪＲが持つ予定になっております。

○小林委員

それと小高駅から南に行くときにSuicaが使えないのと、原ノ町駅との連携がありません。これからＪＲと仕事をしていくのであれば、市側としての要望を出してもらいたいと思います。

○阿部会長

市としての要望はしっかり受け取った上で、どういうふうに進捗しているのかを皆さんに報告していかないと何で鹿島区ばかりということになります。

○小高区役所長

Suicaの件もあわせて市全体としてＪＲとの協議の場で要望しております。あとエレベーターの件も市全体の要望としてＪＲに提出しております。

○小林委員

エレベーターの建設の費用を市が出すことはできないのですか。

○小高区役所長

ＪＲとしては市でお金を出すならば、どうぞということになります。

○志賀副会長

富岡の夜ノ森駅にエレベーターを建設する際に、ＪＲで費用は出さないということで全額町が費用を負担したと記憶しております。

○小高区役所長

ＪＲのスタンスとしては窓口もみどりの窓口も縮小ということで、皆さんも知っている通り原ノ町駅もなくなっておりますから、そういった方向性の中で市としては色々な要望をＪＲに発信していくことを根気よく続けていきたいと思います。

○阿部会長

ＪＲへの要望に関しては別の機会にＪＲにお話しいただければと思います。

○飯塚委員

先程説明の中で、鹿島区には高校がないと話がありましたが、相馬支援学校があります。だから支援学校の子どもたちも安心して待っていられる場所を作ってほしいと思います。

○鹿島区地域振興課鹿島活性化担当係長

大変失礼いたしました。鹿島区には相馬支援学校がありました。申し訳ございませんでした。今程のお話になりますが、本編の３７ページに相馬支援学校さんとの関わりを記載せさてもらっております。計画を立てる段階で我々も各所にヒアリングを行い、相馬支援学校もその一つとして訪問させてもらっている経緯があります。相馬支援学校の生徒さんの作品も定期的に販売を行う等、考えていきたいと思います。

○阿部会長

その他ございますか。

○志賀副会長

相馬支援学校の話がありましたけれど、駅利用が５５０人程でほとんどが通勤通学での利用ということは、それらの人たちとの交流とありましたが、平日朝夕の利用が多いので、土日祝日になると交流は難しいのではないかと思います。駅舎の中に、チャレンジショップや展示コーナーの企画があるということで、イベント実施の重要性は大事だと思いました。

管理は地域おこし協力隊ということで、募集があれば人は来るかと思いますが、人件費が５６１万８０００円とあります。これは１人なのか複数なのか、参加するのに資格は必要なのか、その人たちの居住のことを考えるとどうなのかなと思って見てました。３年後には、指定管理の方に移行と書いてありましたが、手挙げる人がいなかったらどうするのかと思いました。

それと建設費用なんですが、交付金のことについて分からないので教えて欲しいのと、残りは市の財源といいましたが、これは原町区、鹿島区、小高区で割り当てられたものから出るのか、その辺を明確に教えてほしいです。毎年の管理費用メンテナンス関係含めて、この費用も同じように市の財源から出てくるのですが、何十年も続くものなんで今後どうしていくのでしょうか。

最後に移住体験スペースがあって本文の２８ページに山口県の萩市の三見駅が一泊７０００円というのがありました。この建物は相当古いですよね。資料には宿泊代までは載ってましたが、建物にかかる維持費も相当なものではないかと感じました。一番気になるのは、この移住体験スペースが単に移住のお試しだけならいいんですが、ホテルや旅館代わりだとしたらまた違ってきますよね。移住体験にしても、それに必要な寝具や家電製品、水道光熱費等含めて、計画の想定費で足りるのでしょうか。移住体験スペースについてはきちんとしたルール付けをしないと、うやむやにされてしまうと思います。

○鹿島区地域振興課鹿島活性化担当係長

運用の部分の計画では地域おこし協力隊を募集しており、定員については１人でございます。その中身としましては、この地域おこし協力隊員は市の会計年度任用職員で、１会計年度で契約する職員でフルタイム勤務を想定しております。この金額については、記載した金額が全額支給されるのではなく、社会保険料等の経費も含めて、市の予算の計上ベースで記載している中身でございます。最初の３年間は地域おこし協力隊で、その後は指定管理者制度を想定しております。その後は地域おこし協力隊に専従してもらうことで、地域の方々や商工会、観光協会や団体との協議において、その方々とチームを作りたいなと思ってます。今の段階で承諾は取れてはいない状況ですので、今後２年ぐらいかけて地元団体と協議していきたいと思っております。

財源のお話もございましたが、建設費については第２世代交付金ということで補助率２分の１とご説明しましたが、第２世代交付金自体、地域創生を前提とした自治体の取り組みに対してお金をいただけるということで、基本的にはこういうハード整備が中心になるのかなと思っております。今回は駅舎なんですが、地域の交流の施設を建てる時に使う交付金にもなっております。高市政権になってからは、地域未来交付金と名称が変わってしまったのですが、地方創生に係る補助金でございます。それが２分の１なので補助金以外の残りの２分の１はどうなるのかというと、これにつきましては先ほど市の一般財源の方でということで申し上げましたが、鹿島、原町、小高に割り当てられる予算、例えば基金を取り崩すというわけではなく、南相馬市の一般財源ということで、想定しているという状況でございます。

最後に移住体験ゾーンです。移住体験ゾーンの利用者の対象者の想定でございますが、基本的には移住検討者を検討しております。我々が想定しているのは、小高区のお試しハウスでやっているようなことを参考にしていきたいと考えております。南相馬で安く泊まれる場所があるから泊まりたいというのは、移住体験ゾーンの利用者イメージとは全然違います。宿泊したいなら市内のホテルや旅館がありますからそちらを利用してもらわないとお互い成り立たないと思います。観光とはちがいますのでそこのところは線引きしないと考えております。

○志賀副会長

必要な物を準備したら５５０万の予算では間に合わないのではないでしょうか。

○鹿島区地域振興課鹿島活性化担当係長

備品購入費の想定につきましては、待合ゾーン、交流ゾーン、移住体験ゾーンの椅子や机、あとは商品を載せる棚、冷蔵庫調理家電一式、移住体験等で使用する寝具や洗濯機等諸々等を想定しております。業者からの見積を参考に５５０万円の計上しております。

○藤田副主査

今回、老朽化した施設ということでリニューアルに対してこの金額で大丈夫なのかというご質問であると思うのですけれども、備品購入費の上段に記載がある工事費にも一部含まれてますので、その合計で、しっかりと施設が使えるような形で場所を整えて行こうと思っております。

○志賀副会長

耐震のことを考えると、明治３１年開業となっておりますが、その調査は十分行ったのでしょうか。

○藤田副主査

昨年度耐震診断をしておりますので、それで現状を把握しています。次に令和８年度に具体的な設置施設の設計に入るのですが、そのときにもう少し踏み込んだ構造の調査をして、それをもとに耐震に強い整備というもので進

めていく形になります。

〇志賀副会長

ありがとうございます。

〇阿部会長

その他ございますか。

〇末永委員

こちらの改修工事って、１億円ぐらいかかるんですよね。この建物は市の建物になるのでしょうか。それともＪＲから貸与という形になるのでしょうか。維持費がかかってくるので提案なのですが、駅を利用して収入を増やしていくのはどうでしょうか。例えば駅の中に美味しい蕎麦屋さんがあれば近隣の皆さんも食べに来るかと思います。

〇鹿島区地域振興課鹿島活性化担当係長

誰の所有物になるのかというところは、ＪＲから令和９年度に譲渡を受ける予定で、譲渡を受けてからの工事着工となりますので、今後公の施設として扱うようになります。ただ底地はＪＲのままという状況です。底地がＪＲですので若干ＪＲに使用料を支払うことになります。ＪＲのご厚意でだいぶ安くしてくれているのですが、末永委員の言うとおり維持管理費の点は我々も非常に大きい課題として認識しております。指定管理者制度という形も載せておりますので、市として負担する指定管理料は発生します。その中で自走ということが鍵になってくるのではと思います。解決策の一つとして、出店や販売、現段階ではチャレンジショップという形で、鹿島区内の商店に入ってもらってその売り上げの一部を管理運営にまわす等の工夫が必要だとは思っております。そこも含めて今後２年の間に詰めていく必要があると我々は考えております。

〇小林委員

何度もすみません。haccoba が運営しているところに支援を行ってほしいと思っております。ここも赤字で経営が大変だと聞いているので、そこを踏まえて市の方でも一緒に伴走してもらえたらと思います。

○阿部会長

要望という形でよろしいですか。

○小林委員

要望でございます。

○阿部会長

その他ございますか。そもそもこちらの窓口は鹿島区の地域振興課ですか。そもそも地域おこし協力隊の方はどこに常駐するものなんですか。

○鹿島区地域振興課鹿島活性化担当係長

地域おこし協力隊は基本的には区役所に常駐するようになります。

○阿部会長

その他ございますか。ないようですので、この報告についてはこれで終了といたします。

以上をもちまして報告事項を終了いたします。

４．その他

①高校生による小高区での実践事業の令和７年度活動報告及び令和８年度活動予定について

○阿部会長

4．その他に移ります。初めに、「高校生による小高区での実践事業の令和７年度活動報告及び令和８年度活動予定について」担当課より説明をお願いします。

小高区地域振興課　高校生により説明

○阿部会長

それでは、ただいまの説明についてご質問があればお願いします。

○志賀副会長

音楽祭は何時から開催されるのですか。

○酒井主事

１４時開場、１４時半から開演となります。

○志賀副会長

承知しました。

○飯塚委員

高校生の皆さんの考えをお聞きしたいです。高校生の皆さんは地元に帰ってきたいと思っておりますか。友達とかどのように考えてますでしょうか。

○佐藤さん（高校生）

まず私の考えとしては、進学で仙台の方に行くのですが、卒業したらこちらに戻ってきて働きたいと考えております。時間が空いた時は、ＬＬＯや地域の行事に参加したいと考えております。

○飯塚委員

どうもありがとうございます。

○末委員

ＬＬＯのメンバーなんですが１年生が５名、２年生が１６名、３年生が４名の２５人と結構おりますが、このメンバーの募集方法はどうしているのでしょうか。

○酒井主事

私の方から回答させていただきます。メンバーの募集につきましては、毎年４月後半から５月上旬にかけて、市内の高校の方にお伺いしながら直接生徒さんとやり取りさせていただき、募集を行っています。４月末から５月上旬にかけての理由といたしましては、４月上旬から中旬にかけて部活動の加入期間というのがあります。その中で特にやりたいことがない、スポーツは苦手だけど、何かアクションを起こしてみたい、そういった子どもたちがいないかということを、私たちから先生に説明させていただきます。こういった目的でこのような活動をやっているので興味のある方は是非というお話をさせていただき、説明の場を設けていただき募集を行っております。

○末委員

友達や仲間が入ったからやってみようと言って加入する子たちもいるから、地域性もあるかもしれませんね。小高区だけではなかったですよね。原町区、鹿島区あたりからもきてる形ですよね。

○酒井主事

小高区に限らず原町区、鹿島区の方も加入していて、昨年度ですと相馬市から通っていた子たちもいた状況ではあります。

○半谷恵美子委員

佐藤さんは原町区に住んでいるとのことですが、小高区で活動してみて、原町区と小高区でどのように違いましたでしょうか。あと活動している中で小高区のどんなところが一番好きだなって思ったのかということを教えてください。

○佐藤さん（高校生）

はい、自分が原町区に持ってるイメージは自然もありつつ、まちのメインの市役所周辺は建物ばかりのイメージです。小高区の方は原町区よりも自然が多いと思います。自分は自然や緑が好きなので、自然が原町区に比べて小高区は多いので好きです。

○半谷恵美子委員

ありがとうございます。

○志賀副会長

火の祭や夏祭の時も、暑い中一生懸命活動している姿を見ていました。こういったイベントを企画して、みんなと協力しながらチームプレーで実行できていたと思います。色々な物の仕入れをする、販売する中でお客様とのコミュニケーションで得た経験は自分の糧になると思いますので、今後ＬＬＯで活動してきたことを誇りに人生を歩んでもらえたらと思います。

○阿部会長

志賀副会長にまとめていただきました。本日の発表、佐藤さんどうもありがとうございました。

次の事項に移りたいと思います。

②観光協会３区統合について

○阿部会長

次に「観光協会３区統合について」担当課より説明をお願いします。

小高区地域振興課より　資料４により説明

○阿部会長

それでは、ただいまの説明について、ご質問があればお願いします。

○志賀副会長

４番の箇所の書き方をみると、統合が決まったような書き方になってますが、決まったのでしょうか。

○小高区地域振興課振興担当係長

確定している状況ではありません。今後３区含めて話をしていきます。書きぶりが確定しているような書き方となってしまい申し訳ございません。

○志賀副会長

このような話が出たということは、指導した部署があるのでしょうか。市の商工観光部なのか、それとも南相馬観光協会なのでしょうか。それと鹿島も含めて二つの観光協会は賛同しているのでしょうか。南相馬観光協会と鹿島観光協会は一般社団法人でありまして、一般社団法人にするためには、寄付金や基金を集めて立ち上げなければいけません。南相馬や鹿島の観光協会は、いつごろ一般社団法人となったのでしょうか。また小高観光協会の職員は、区役所の中で仕事をしているのであれば、市の一部という形で見ていいと思うのですが、ここを切り離すのであれば、経営改革推進審議会を通さなければならないのではと思います。最後に地域ＤＭＯという観光地域づくり法人があります。例えば福島市内ですと観光協会や温泉協会等が組織して、

今後一緒に行っていきましょうという組織を立ち上げていくようでした。むしろこのようなやり方をとり、緩やかな連携を進めていきましょうといった形の方がよいのではないかと思い提案いたします。以上です。

〇小高区地域振興課長

まず１つ目。主導した部署や担当課ですが、南相馬市役所本庁の観光交流課と、あと我々小高観光協会の事務局が、お互い立ち行かなくなるのではと危機意識を同時に持ちました。あくまで内部の話ですが、最初に南相馬市観光協会、観光交流課でざっくりしたロードマップを見せられまして、これに小高観光協会も乗っていくしかないかという形になりました。それぐらい財政が逼迫している状況が小高観光協会で続いております。次に鹿島と原町は現在一般社団法人になっておりまして、その時期は不明なんですが震災前は任意団体だったはずです。例えば、医師会や消防協会等が国の指導が入って任意団体ではなく震災直前ぐらいに法人に切り替えていった時期がありまして、おそらくその時期に観光協会も切り替わったのだろうと思います。小高は時期としては震災が入ってしまったので切り替わるタイミングがなく結果として任意団体のまま小高観光協会が残っている現状でございます。統合に関しては、一般社団法人に任意団体が合併するということはさほど難しくはないのではないかと思っております。ただその点は調査研究できてない部分もあるので、今話し合いが始まったばかりのところでございます。３つ目の地域ＤＭＯ、観光協会の職員も含めて分かっていないところもありまして、引き続きそういった内容の調査研究も含めて、検討のテーブルに載せていきたいと感じたところです。一応資料の一番下から３行目、統合に関する具体的な運営体制や仕組みに関しては、統合後のイメージを青写真に落とさないと議論が難しいと思っているので、闇雲に統合に賛成してくださいっていうような進め方をしようとは思ってはおりません。そういったことから統合が決まった状況ではありません。

〇志賀副会長

ありがとうございます。決して私は反対してる訳ではないんです。観光協会が法人化したのは国の指導があったようだというところで見てました。鹿島も原町も観光協会も事業者から協賛金という名目でお金を募っているのだろうと思っております。協賛については南相馬の観光協会のホームページに

載っておりました。小高観光協会も一般法人もしくは非社団法人化して非営利と営利に分けて経営が成り立つように努力して欲しいと思います。そうした上で、さっき言った地域ＤＭＯに南相馬市の観光交流課が指定としてとなっていければと思いました。

〇小高区地域振興課長

観光協会は、鹿島区、原町区、小高区のそれぞれの文化を大切にしているところがあって、それらが失われるようなことになっては本末転倒だと思っております。それと地元の皆さんが苦労するようなことができる限りないように、そういう視点で話し合いをしていきたいと思っております。ご意見ありがとうございます。

〇小林委員

余計なことかと思いますが、区役所に観光協会の方がいらっしゃるのですが、意外に見えてなくて、場所を駅や小高交流センターの場所にあったらいいのではないかと思いました。

〇小高区地域振興課長

はい。ご意見ありがとうございます。確かに執務場所は大事だと思ってます。地域から要望があったということを念頭に入れて進めていきたいと思います。

〇志賀副会長

ちなみに富岡の観光協会は駅に併設してるんですよね。それならば、小高の交流センターのサーフボードの場所をお勧めします。もしくは、ふれあい広場の所もいいかなと思います。提案になります。

〇小高区地域振興課長

小高交流センターは４月から指定管理になるので、今サーフボード店になっている場所はイリゼが入る予定です。

〇半谷恵美子委員

小高交流センターに入るイリゼの機能として観光案内を請け負ってくれと

も言われております。色々と聞かれた際は案内を行う形になります。

〇阿部会長

ほかに、質問はございませんか。なければこの報告事項を終了します。

その他、各委員、事務局から何かございませんか。

なければ、以上をもって、本日の会議を終了いたします。

５．閉会

〇小高区地域振興課長

阿部会長ありがとうございました。

事務局からは特にありませんので、これで本日の会議は終了となりますが、冒頭会長から話がありましたように、３月で委員の皆様の任期が満了となりますので、最後に小高区役所長より御礼の挨拶を申し上げます。

小高区役所長より挨拶

それでは、以上をもちまして令和７年度第９回小高区地域協議会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

令和７年度第９回小高区地域協議会会議録

小高区地域協議会長 [signature]

会議録署名人 [signature]

会議録署名人 [signature]